

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	人文科学概論(コミュニケーションを含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	吉川 三恵子	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	対人コミュニケーションの基礎と方法を学びます。また、文学作品(詩・小説)に親しみ、日常の言語生活に活用することについて学びます。	
到達目標	1 日常の言語活動(聞く・話す)を通して、コミュニケーション能力の向上を図れる。 2 文学への関心を寄せ、医療者としての感性豊かな自己形成を図れる。 3 医療面接の役割を熟知し、鍼灸治療の実践に生かせるようになる。	
授業計画		前期計15時間
	1 オリエンテーション、人文科学概論の内容と目的 2 コミュニケーション 他己紹介をする／インタビュー 3 鍼灸師の資質とあるべき姿 4 医療面接を古典に探る 5 医療面接の目的と構造 6 医療面接とコミュニケーション 7 言葉遣い(敬語) ※ 学習のまとめ	1 2 2 1 1 3 4 1
	後期計(15週)	後期計15時間
	8 質問法 9 医療面接に求められる態度 10 患者の解釈モデルを聴く 11 解釈モデルを支える認知機能(伝言ゲーム) 12 患者への説明と教育 13 文学に触れる「高瀬舟」 ※ 学習のまとめ	1 3 1 3 3 3 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	筆記試験(前期・後期)、授業で課した課題・発表の取組みを総合して評価します。	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。	
自己学習の進め方	毎回の授業後に、振り返り学習をしてください。 文学に触れた授業では、課題提出や発表に、意欲的に取り組んでください。	
使用教科書	改訂版 鍼灸臨床における医療面接、丹澤 章八著、医道の日本社、2019年	
参考書/参考資料	必要に応じて配付します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	社会科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	吉井 顕穂	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障の歴史と役割、また日本の社会保障制度を構成する社会保険、公的扶助、社会福祉各制度のしくみについて学びます。	
到達目標	1 社会保障の概念と役割を理解し、説明できるようになる。 2 社会保険、公的扶助、社会福祉について、各制度の成立の背景と役割の相違を理解し、説明できるようになる。 3 社会保障の制度による給付方式の違いを理解し、説明できるようになる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計15時間
	1 オリエンテーション 2 社会保障とは 3 社会保障の源流 4 社会保障の誕生と福祉国家の成立 5 社会保障の転換と再編 6 日本の社会保障の歴史 7 社会保障の財政 8 社会保険制度の概要 9 医療保障と医療保険制度	1 1 2 2 1 2 2 2 2
	後期計 (15週)	後期計15時間
	10 医療保険の種類 11 医療保険の給付 12 公的年金制度の概要 13 年金給付の仕組み 14 公的年金制度の沿革と関連制度 15 介護保険制度の概要 16 介護保険制度の給付	2 2 2 3 2 2 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行う期末試験(筆記試験)の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。	
履修上の留意点	成績評価は期末一斉試験期間に実施し、中間試験は実施しません。	
自己学習の進め方	1 授業の前にテキストを読んで予習をしておいてください。 2 復習時もテキスト読みを励行し、内容の理解に努めてください。 3 疑問に思ったこと、よく理解できなかったことについては、積極的に質問し、解決するよう心がけてください。	
使用教科書	教官作成のテキスト(墨字・点字・データ版)を使用します。	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	自然科学概論	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	桑崎 哲治	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	1 細胞に関する歴史と基本的概念を学びます。 2 原子の構造と化学結合の基本的概念を学びます。	
到達目標	1 細胞に関する基礎的知識を学び、概念、原理、法則等を説明できる。 2 施術者として必要な自然科学(生物分野)の基礎的知識を学び、物事を科学的に判断して、解決する能力と態度を修得できるようになる。 3 化学結合の基礎的知識を学び、物事を科学的に判断して、概念、原理、法則等を説明できる。	
授業計画	前期計(15週)	前期計15時間
	1 オリエンテーション 2 細胞の発見と顕微鏡 (1) 顕微鏡の発明 (2) 細胞の発見 (3) 細胞についての研究 (4) 細胞説 (5) 顕微鏡光学顕微鏡と電子顕微鏡 (6) 顕微鏡の中の長さの単位 (7) 細胞と顕微鏡 ※ 学習のまとめ ※ 期末試験講評	0.5 3 2 2 1 2 2 1 1 0.5
	後期計(15週)	後期計15時間
	(8) 細胞の分画と蛋白質の分離 3 細胞の分類 (1) 細胞とは (2) 原核細胞と真核細胞 4 原子 (1) 原子の構造陽子、中性子、電子 (2) 元素記号、原子番号と質量数 練習問題 (3) イオン 価電子、陽イオンと陰イオン ※ 学習のまとめ ※ 期末試験講評 5 化学結合 (1) イオン結合 (2) 共有結合	2 1 1 1 1 1 2 1 0.5 2.5 2
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、各学期末に行われる期末評価(筆記試験)の平均点(小数点第1位は切り捨て)を学年末評価とします。	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。	
自己学習の進め方	講義は事前に配布する資料を用いて進めます。 必ず資料を読んで、講義内容を把握して講義に臨んでください。 講義後は配付資料を精通して復習し、内容理解に努めてください。 自己学習しても理解できないところがあれば、次の講義までに質問してください。	
使用教科書	使用しません。章ごとに資料と図を配布します。	
参考書/参考資料	細胞の世界、ベッカー他著 村松正実他監訳、西村書店、2005年	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	保健体育	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	高木 富士男	
修得単位数	1単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	運動・スポーツにかかわる基本的な知識と技術について学びます。また体力測定を通して自身の身体状況を客観的に捉えることについて学びます。	
到達目標	1 運動・スポーツの重要性を理解することができる。 2 運動・スポーツを生涯にわたって実践できるようになる。 3 運動・スポーツ実践の基となる自身の体力の現状を客観的に把握できる。	
授業計画	前期計(15週)	前期計15時間
	1 オリエンテーション 2 体力測定(筋力、柔軟性、敏捷性、筋持久力) 3 身体局所の動き(ラジオ体操第1) 4 ゴールボール 5 フライングディスク(ディスリート5) 6 サウンドテーブルテニス 7 トレーニング(自重、機器)	1 2 2 4 2 3 1
	後期計(15週)	後期計15時間
	8 身体局所の動き(ラジオ体操第2) 9 フロアバレーボール 10 ボッチャ(団体) 11 陸上競技(歩、走) 12 ストレッチ(動的) 13 ニュースポーツ 14 グラウンドゴルフ	2 5 2 2 1 2 1
実務経験の有無 その活かし方	有 運動指導員 障がい者スポーツセンターでの運動・スポーツ指導経験を活かして、トレーニングやストレッチを紹介し、1年次履修科目に関連する知識の幅を広げます。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価(いずれも実技試験及び口頭試験)の平均点を学年末評価とします。(小数点第1位は切り捨て)	
履修上の留意点	中間試験は実施しません。天候により使用する体育施設を変更する場合があります。	
自己学習の進め方	1 ラジオ体操第1やラジオ体操第2の放送時刻を把握し、「ラジオ体操第1・第2」の動きを学習してください。 2 既習の内容については、体育的行事の活用や自己学習を含めて振り返り学習してください。 3 事前・事後の学習は欠かさないようにしてください。	
使用教科書	なし。(必要に応じて資料等を配布します)	
参考書/参考資料	障がいのある人のスポーツ指導教本、日本パラスポーツ協会著、ぎょうせい、2023年全国障害者スポーツ大会競技規則集、日本パラスポーツ協会著、日本パラスポーツ協会、2024年	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅰ(運動学を含む)	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	金本 浩忠	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	解剖学の基礎と骨系、筋系及び神経系の位置・形態・構造とその運動について学びます。	
到達目標	1 解剖学の基礎について理解し説明することができる。 2 骨の名称、関節の種類について理解し説明することができる。 3 筋の名称、走行及び支配神経を理解し説明することができる。 4 運動器系及び神経系について位置・形態・構造を理解し正確に触知することができる。 5 神経系及び運動器系について他の科目と関連付けて理解し説明することができる。	
授業計画	前期計(15週)	前期計60時間
	1 オリエンテーション 2 解剖学の基礎 3 人体の区分と方向 4 運動器系(骨格系) (1) 総論 (2) 脊柱 (3) 胸郭 (4) 上肢の骨格、上肢の関節と運動 (5) 下肢の骨格、下肢の関節と運動 (6) 頭蓋骨 5 運動器系(筋系) (1) 総論 (2) 体幹、体幹の筋、運動、局所解剖	1 10 2 30
	※ 中間試験、講評	2
	後期計(15週)	後期計60時間
	6 運動器系(筋系) (2) 体幹、体幹の筋、運動、局所解剖(続き) (3) 上肢、上肢の筋、運動、局所解剖 (4) 下肢、下肢の筋、運動、局所解剖 (5) 頭頸部、頭頸部の体表および局所解剖 7 解剖見学実習 冬季休業中の支援期間中に解剖見学実習を実施します。 8 神経系 (1) 神経系の構成 (2) 中枢神経系 (3) 伝導路 (4) 末梢神経系	22 36
	※ 中間試験、講評	2
実務経験の有無 その活かし方	有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 医療機関での臨床経験を活かして、実際の施術機会に用いられる骨系、筋系、神経系のポイントを紹介して、実技科目に応用できる知識を養います。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価(いずれも筆記試験)の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	解剖学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも解剖学の知識は重要となります。授業が終わったら必ずその内容を復習してください。教科書をよく読み込み十分に理解しておくことが大切です。また、わからないことがあればそのままにせず質問するようにしてください。	
使用教科書	解剖学 第2版 テキスト版、図譜版、河野邦雄他著、医歯薬出版、2024年	
参考書/参考資料	適宜配布します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	解剖学Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	今泉 正博	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系の位置・形態・構造とその機能について学びます。	
到達目標	1 循環器系の位置・形態・構造とその基本的機能を説明できる。 2 呼吸器系の位置・形態・構造とその基本的機能を説明できる。 3 消化器系の位置・形態・構造とその基本的機能を説明できる。 4 泌尿器系・生殖器系の位置・形態・構造とその基本的機能を説明できる。 5 内分泌系・感覚器系の位置・形態・構造とその基本的機能を説明できる。	
授業計画	前期計(15週)	前期計45時間
	1 オリエンテーション 2 循環器系 (1) 血管系、(2) 心臓、(3) 動脈系、(4) 静脈系、 (5) 胎児循環、(6) リンパ系 3 呼吸器系 (1) 鼻腔・副鼻腔、(2) 咽頭・喉頭、(3) 気管と気管支、 (4) 肺 4 消化器系 (1) 消化器の基本構造、(2) 口腔、(3) 咽頭、(4) 食道、 (5) 胃、(6) 小腸、(7) 大腸、(8) 肝臓、(9) 胆嚢、 (10) 膵臓、(11) 腹膜 ※ 中間試験	1 18 10 15 1
	後期計(15週)	後期計45時間
	5 泌尿器系 (1) 腎臓、(2) 尿路 6 生殖器系 (1) 男性生殖器、(2) 女性生殖器、(3) 受精と発生 7 内分泌系 (1) 下垂体、(2) 松果体、(3) 甲状腺、(4) 上皮小体、 (5) 副腎、(6) 膵臓、(7) 性腺 8 感覚器系 (1) 視覚器、(2) 平衡聴覚器、(3) 味覚器、(4) 嗅覚器、 (5) 皮膚 9 解剖見学実習 ※ 中間試験	10 10 12 10 2 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価(いずれも筆記試験)の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。	
履修上の留意点	学年末評価が50点以上59点未満の場合のみ上記細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。また、15分を超える遅刻や早退は欠席となります。	
自己学習の進め方	解剖学は2年、3年で履修する科目の基礎となる科目です。また、あん摩や鍼の実技でも解剖学の知識は重要となります。試験前の学習だけで点数が取れたとしても、それは自身自身の知識とはならず、忘れてしまい、そのことは他の学習や実技にも大きく影響します。授業が終わったら必ずその内容を復習してください。教科書をよく読み込み十分に理解しておくことが大切です。また、わからないことがあればそのまま放置せず質問するようにしてください。	
	解剖学 第2版 テキスト版、図譜版、河野邦雄他著、医歯薬出版、2021年	
参考書/参考資料	まとめの資料を作成し配布します。	

令和6年度、授業計画書(シラバス)

科目名	生理学 I	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	田端 里美	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	安全な施術をするためには人体の構造と生理機能を理解することが重要です。本講義では基本となる正常な人体の生理機能について学習します。	
到達目標	1 生理学の基礎的な専門用語を理解し説明できる。 2 人体を構成する細胞および器官の機能について簡潔に説明できる。 3 人体の構造と機能を関連づけて説明することができる。	
授業計画	前期計 (15週)	前期計30時間
	1 オリエンテーション 2 生理学の基礎 3 循環 (1) 血液の組成と働き、(2) 止血、(3) 線維素溶解、 (4) 血液型、(5) 心臓血管系、(6) 心臓の構造と働き、 (7) 血液循環、(8) 循環調節、(9) リンパ系 4 呼吸 ※ 中間試験	1 4 14 10 1
	後期計 (15週)	後期計30時間
	5 消化と吸収 6 代謝 7 体温 8 排泄 ※ 中間試験	8 8 9 4 1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価（いずれも筆記試験）の平均点を学年末評価とします（小数点第1位は切り捨て）。6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
履修上の留意点	1 生理学は2年、3年で履修する科目の基礎となります。また、あん摩や鍼灸の実技でも重要となりますので、他の科目と関連付けて学習しましょう。 2 試験前の学習だけで点数がとれたとしてもそれは自分自身の知識とはならず、忘れてしまい、他の学習や実技にも大きく影響しますので、日頃から少しずつ勉強しておくことが大切です。	
自己学習の進め方	1 予習では、教科書を読んでわからない漢字の読み方や意味を調べましょう。 2 授業が終わったら必ずその内容を復習しましょう。 3 わからないことがあればそのまま放置せず質問するようにしましょう。	
使用教科書	人体の構造と機能 生理学 第3版、盲学校理療科用図書編纂委員会編、 医歯薬出版、2014年	
参考書/参考資料	授業で必要に応じて配布または紹介します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	医療概論（社会保障制度及び職業倫理を含む）	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	天野 光二	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	30時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	社会保障制度及び医療制度の課題並びに生命倫理及び職業倫理についての基礎的知識を学びます。	
到達目標	1 社会保障制度について説明することができる。 2 医療制度の課題について述べるすることができる。 3 生命倫理及び職業倫理について述べるすることができる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計15時間
	1 オリエンテーション	1
	2 医学と医療	
	(1) 現代の医学と医療 3 (2) 社会保障制度 7 ①社会保険 ②社会福祉 ③公的扶助 ④公衆衛生及び医療 (3) 現代の医学と医療の課題 4	
	後期計（15週）	後期計15時間
	3 生命倫理	
	(1) 医の倫理（職業倫理） 7 ①倫理とは ②医療倫理 ③施術者としての倫理 (2) ターミナルケア 2 (3) 自然死、尊厳死、安楽死 2 (4) 臓器移植と脳死 2 (5) 体外受精・人工妊娠中絶・胎児診断 2	
実務経験の有無 その活かし方	有 はり師、きゅう師 医療現場(病院、施術所)での勤務経験を活かして、具体例をあげるなどしてわかりやすく教授します。	
成績評価の方法	前期期末と後期期末に筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。	
履修上の留意点	社会保障制度及び職業倫理に関する指導内容は1単位分を目安とします。	
自己学習の進め方	普段から、社会保障制度や職業倫理について関心を持ち、関連する情報にふれるように心がけましょう。	
使用教科書	医療と関係法規 第8版、岡村文雄・芦野純夫著、東京点字出版所、2024年	
参考書/参考資料	厚生労働白書（令和5年版）、日経印刷、2023年 資料は必要に応じて配布します。	

令和6年度 授業計画書（シラバス）

科目名	東洋医学概論Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	天野 光二	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な東洋医学の基礎理論、東洋医学の生理観を学びます。	
到達目標	1 東洋医学の特徴について説明することができる。 2 陰陽の概念と相互関係について説明することができる。 3 五行の概念と相互関係について説明することができる。 4 五行色体表を暗唱することができる。 5 神の生理作用を説明することができる。 6 精の分類と生理作用を説明することができる。 7 気の分類と生理作用を説明することができる。 8 血の生理作用を説明することができる。 9 津液の生理作用を説明することができる。 10 気・血・津液の相互関係を説明することができる。 11 臓腑の生理作用を説明することができる。 12 臓腑の相互関係を説明することができる。 13 経絡と経穴の概要を述べることができる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計30時間
	1 オリエンテーション 2 東洋医学の意義と特徴 3 陰陽論 4 五行論 5 東洋医学における人体の構成 6 神・精・気・血・津液の生理① ※ 中間試験	1 5 6 6 1 10 1
	後期計（15週）	後期計30時間
	7 神・精・気・血・津液の生理② 8 臓象論 9 経絡と経穴 ※ 中間試験	6 18 5 1
実務経験の有無 その活かし方	有 はり師、きゅう師 病院や鍼灸施術所での勤務経験を活かし、実践を踏まえて教授します。	
成績評価の方法	前期期末と後期期末に筆記試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。学年末評価60点以上が単位修得の条件です。試験の出題形式は択一式・選択式・記述式とします。	
履修上の留意点	各学期の中間期など必要に応じて形成的評価を行います（学年末評価には影響しません）。経絡経穴概論Ⅰの内容も学習範囲に含まれます。	
自己学習の進め方	予習は、教科書を事前に一度読むことをお勧めします。内容の意味がわからなくてもかまいませんので、とりあえず声に出して読んでみてください。読めない漢字は飛ばしていいです。 復習は、もう一度教科書を読んでください。その時は、ある程度内容が理解できていることを確認してください。	
使用教科書	基礎理療学Ⅰ（東洋医学概論）改訂第8版、オリエンス研究会著、岡山ライトハウス、2024年	
参考書/参考資料	新版 東洋医学概論、東洋療法学校協会編、医道の日本社、2021年 針灸学（基礎編）、日中共同編集、東洋医学出版社、1992年	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	経絡経穴概論Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	今泉 正博	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	講義	
科目の概要 (授業科目の内容)	経絡経穴の基礎、正経十二経と督脈・任脈に付属する経穴の名称と部位について学びます。 既習の知識を活かし施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を習得します。	
到達目標	1 経絡と経穴の概念について説明できる。 2 陰陽、臓腑、経絡の関係を理解し説明できる。 3 十四経の名称、流注及び所属経穴を理解し説明できる。 4 骨度法、同身寸法の概念を理解しそれを用いて人体に取穴できる。 5 主要経穴について理解し、解剖学と関連付けながら取穴できる。	
授業計画	前期計(15週)	
	1 オリエンテーション	1
	2 経絡経穴の基礎	5
	3 経脈・経穴	2
	(1) 経穴の取り方に必要な用語	
	(2) 十四経脈とその経穴	
	① 督脈	5
	② 任脈	5
	③ 手の太陰肺経	3
	④ 手の陽明大腸経	5
	⑤ 足の陽明胃経	13
	⑥ 足の太陰脾経	5
	※ 中間試験	1
授業計画	後期計(15週)	
	⑦ 手の少陰心経	3
	⑧ 手の太陽小腸経	4
	⑨ 足の太陽膀胱経	12
	⑩ 足の少陰腎経	4
	⑪ 手の厥陰心包経	3
	⑫ 手の少陽三焦経	5
	⑬ 足の少陽胆経	8
	⑭ 足の厥陰肝経	5
	※ 中間試験	1
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価(いずれも筆記試験)の平均点を学年末評価とします(小数点第1位は切り捨て)。他に中間試験を各学期内に1回行いますが、これは形成的評価として学年末評価には含めません。	
履修上の留意点	学年末評価が50点以上59点未満の場合のみ上記細則の規定により補習を行った上で再評価試験を行います。また、15分を超える遅刻や早退は欠席となります。	
自己学習の進め方	経穴の名称・部位を暗記するだけでなく、正確に取穴できるよう普段から積極的に身体に触れることを心がけましょう。また、東概Ⅰ及び解剖Ⅰにおいて学習したことと関連づけながら復習することでより理解が深まります。	
使用教科書	新版 経絡経穴概論 拡大版第2版、日本理療科教員連盟・東洋療法学校協会編、医道の日本、2022年	
参考書/参考資料	授業で必要に応じて配布または紹介します。	

令和6年度 授業計画書（シラバス）

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	田端 里美、絹見 昭洋	
修得単位数	4単位	
年間授業時数	120時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 （授業科目の内容）	あん摩の沿革、施術者としての注意事項、基本手技、全身あん摩（座位・側臥位・腹臥位）などについて学習します。	
到達目標	1 身だしなみを整え、適切な言葉遣いができる。 2 あん摩の基本手技を正確かつ安全に行うことができる。 3 適切な姿勢・位置取りで重心移動による漸増漸減の加圧ができる。 4 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 5 施術に必要な触察（解剖学的構造の理解、身体把握など）ができる。 6 施術に必要な体力が身についている。	
授業計画	前期計（15週）	前期計60時間
	1 オリエンテーション、施術者としての注意事項、あん摩の沿革 2 施術部位の名称、基本手技 3 座位のあん摩 （1）肩背部のあん摩 （2）頸部頭部のあん摩 （3）上肢のあん摩 4 輪状母指揉捏法	2 8 14 14 14 6
	※ 中間試験	2
	後期計（15週）	後期計60時間
	5 側臥位のあん摩 （1）上半身 （2）下半身 6 腹臥位の仕上げ （1）上半身 （2）下半身 7 座位の仕上げ	12 12 13 13 8
	※ 中間試験	2
実務経験の有無 その活かし方	有 絹見：あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 ヘルスキーパーの経験を活かし、患者さんに合わせたリスク管理のもと安全かつ効果的な施術をできるよう指導を行います。	
成績評価の方法	1 理療教育実施細則に基づき、前期期末・後期期末評価の平均点を学年末評価（小数点第1位は切り捨て）とし、60点以上で単位修得となります。 2 学年末評価が60点未満の場合、単位修得できず原級留置となります。 3 中間期試験は形成的評価として実施します。	
履修上の留意点	1 リスク管理・衛生管理に十分配慮しましょう。特に母指圧の力度は被術者に合わせましょう。 2 骨・関節・筋などは解剖学と関連するので、十分学習しましょう。 3 人に不安や不快感を与えるような身だしなみ・言葉遣いをしないようにしましょう。	
自己学習の進め方	1 日ごろから母指の鍛錬を行ってください。 2 予習は事前に施術部位の術式を暗記してください。 3 復習は各自、授業で習った部位の施術練習を行ってください。	
使用教科書	理療基礎実習 第2版、東京都文京盲学校理療研究会著、日本ライトハウス、2019年	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	村松 芳容、岩本 稔	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	術式は教科書を基本として、医療マッサージの基礎的な技術と能力の根底を学びます。保健医療を始め各種適応疾患に対応できるようになるためのマッサージの基礎を上級学年に繋がるように学びます。	
到達目標	1 身だしなみを整え、適切な言葉遣いができる。 2 マッサージ施術の基本手技を正確かつ安全に行うことができる。 3 適切な姿勢・位置取りで重心移動による漸増漸減の加圧ができる。 4 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 5 施術に必要な触察（解剖学的構造の理解、身体把握など）ができる。 6 施術に必要な体力が身についている。	
授業計画	前期計（15週）	前期計30時間
	1 オリエンテーション、マッサージ施術への導入（総論） （1）マッサージの概要	2
	2-1 マッサージの基本手技 （1）軽擦法 （2）圧迫法 （3）揉捏法 （4）叩打法	2
	3 身体各部のマッサージ （1）前腕 （2）下腿 ※ 復習と評価	6 12 8
	後期計（15週）	後期計30時間
	2-2 マッサージの基本手技 （5）按捏法（強擦法）	2
	4 各関節のマッサージの施術 （1）手関節 （2）足関節 （3）肩関節 （4）膝関節	4 4 4 8
	5 顔面のマッサージの施術 ※ 復習と評価	4 4
実務経験の有無 その活かし方	有 村松：有 岩本：有 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床現場での経験を活かして、実践的かつわかりやすい指導を行います。	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期期末、後期期末評価の平均点を学年末評価とします。（小数点第1位は切り捨て） 評価は、前・後期期末試験の週までに実技試験を実施します。	
履修上の留意点	6月、11月の2回、形成的評価のため中間試験を実施します。	
自己学習の進め方	予習よりも復習が中心となります。既習の内容について、関連科目の内容も含めて振り返り、特に実技は繰り返し行うことです。	
使用教科書	1 理療基礎実習 第2版、東京都立文教専門学校理療研究会著、日本ライトハウス、2019年 2 基礎保健理療Ⅱ（保健理療理論）、東京都立文教専門学校理療研究会著、日本ライトハウス、2014年	
参考書/参考資料	必要に応じて配布します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅰ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	米田 裕和、松本 元司	
修得単位数	3単位	
年間授業時数	90時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	はり施術に関する基礎的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1 身だしなみを整え、適切な言葉遣いができる。 2 鍼施術の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 3 押手を安定させ直刺ができる。 4 一定時間内に身体各部位（経穴）への刺鍼ができる。 5 合理的な動作で適切に器具を取扱うことができる。 6 鍼施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計45時間
	1 オリエンテーション、施術への導入	2
	2 施鍼の基礎	8
	3 基本手技（座位、立位）	15
	4－1 身体各部への刺鍼（寸3－1番鍼、寸6－2番鍼）	
	（1）自身の下肢	4
	（2）下肢	4
	（3）前腕	2
	（4）腰部	2
	5－1 主な経穴への刺鍼	8
	後期計（15週）	後期計45時間
	4－2 身体各部への刺鍼（寸3－1番鍼、寸6－2番鍼）	
	（2）下肢、（3）前腕、（4）腰部、（5）背部、	20
	（6）肩甲間部、（7）頸部、（8）頭部、（9）顔面部	10
	（10）膝関節周囲	5
	5－2 主な経穴への刺鍼	10
実務経験の有無 その活かし方	無	
成績評価の方法	理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末評価の平均点を学年末評価とします。また、随時評価を実施し、知識・技術を確認して必要により学習支援を行います。	
履修上の留意点	1 清潔な環境の維持 2 体調管理 3 インシデントの予防と注意	
自己学習の進め方	毎回の授業で基本手技を繰り返し練習し技術の向上を確認してください。生体を使用した刺鍼練習は、医療事故防止のため授業内のみとしてください。自己練習は、必ず刺鍼練習器を使用してください。	
使用教科書	理療基礎実習 第2版、東京都文京盲学校理療研究会著、日本ライトハウス、2019年	
参考書/参考資料	はりきゅう基礎技術学、有馬義貴著、南江堂、2007年	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	はりきゅう基礎実習Ⅱ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	天野 光二	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	きゅう施術に関する基礎的な知識と技術について学びます。	
到達目標	1 身だしなみを整え、適切な言葉遣いができる。 2 施灸の基本操作を正確かつ安全に行うことができる。 3 決められた大きさと形で艾炷を作成できる。 4 一定時間内に定められた部位（経穴）への施灸ができる。 5 合理的な動作で適切に器具を取り扱うことができる。 6 灸施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。	
授業計画	前期計（15週）	前期計30時間
	1 オリエンテーション 2 灸施術の基礎とリスク管理について 3 各種施灸法の基礎 （1）透熱灸 （2）知熱灸 （3）台座灸 （4）温筒灸 4 透熱灸と知熱灸の練習 （1）透熱灸（艾炷作成）と知熱灸の基礎的練習（施灸板） （2）透熱灸（艾炷作成）と身体各部への知熱灸	1 3 2 2 2 2 8 10
	後期計（15週）	後期計30時間
	5 台座灸と温筒灸の練習 （1）基礎的練習 （2）主要経穴への施灸（取穴を含む） 6 その他の温灸 （1）箱灸 （2）その他（棒灸・隔物灸など） 7 総合練習	2 16 2 4 6
実務経験の有無 その活かし方	有 はり師・きゅう師 医療現場（病院・施術所）でのはりきゅう師として臨床経験を活かして、実際に臨床の場で役に立つようにわかりやすく実技指導します。	
成績評価の方法	前期末と後期末に実技試験を実施し、その平均点を学年末評価とします。 各学期の中間期に、平常授業における観察法によって形成評価を行います。	
履修上の留意点	灸実技では火傷の可能性が常にあります。特に有痕灸では火傷になりますので、心身のリスク等がある方は申し出てください。 授業計画は法定授業時間数を基準としていますので、実際の授業時間数や進捗状況により適宜各項目の授業時間数を増減します。	
自己学習の進め方	予習は、適宜教科書を読んでください。復習は、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行い、実習室以外では火器を使用しないこと。なお、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル（利用者向け）」第8章 授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照	
使用教科書	理療基礎実習 第2版、東京都立文京盲学校理療科研究会編、日本ライトハウス、2019年	
参考書/参考資料	資料は必要に応じて配布します。	

令和6年度 授業計画書(シラバス)

科目名	あん摩マッサージ指圧基礎実習Ⅲ	
課程	あん摩マッサージ指圧、はり、きゅう科 専門課程	
対象クラス	1年A組	
担当教官名	青柳 達也 村松 芳容	
修得単位数	2単位	
年間授業時数	60時間	
授業の方法	実技	
科目の概要 (授業科目の内容)	施術者として必要な知識と技能を学習します。また、施術者としての心得、リスク管理、衛生管理、基本手技、基本的な術式などを修得します。	
到達目標	1 身だしなみを整え、適切な言葉遣いができる。 2 指圧施術の基本手技を正確かつ安全に行うことができる。 3 適切な姿勢・位置取りで重心移動による漸増漸減の加圧ができる。 4 施術に関わる衛生管理・リスク管理・時間管理ができる。 5 施術に必要な触察（解剖学的構造の理解、身体把握など）ができる。 6 施術に必要な体力が身についている。	
授業計画	前期計（15週）	前期計30時間
	1 オリエンテーション、導入（指圧の意義、沿革、環境認知など） 2 リスク管理（施術前後を含む骨折・揉み返しなど）、衛生管理などの説明 3 施術時の姿勢、施術部位の名称の説明 4 押圧操作の紹介（通常圧法、緩圧法、衝圧法、持続圧法、吸引圧法） 5 手技の紹介（母指圧法、四指圧法、手掌圧法など） 6 腹臥位の施術（1カ所2回で行う 触察を含み、矯正法は行わない） ※ 中間試験	1 1 1 1 2 22 2
	後期計（15週）	後期計30時間
	6 前期の続き（腹臥位の施術（1カ所2回で行う 触察を含む、矯正法は行わない） 7 背臥位（仰臥位）の施術（1カ所2回行う。 触察を含み、矯正法は行わない） 8 座位の施術 9 総復習 ※ 中間試験	5 12 5 6 2
実務経験の有無 その活かし方	無 村松：あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師 臨床現場での経験を活かして、実践的かつわかりやすい指導を行います。	
成績評価の方法	各学期ごとに中間試験・期末試験として、実技試験を行います。また、中間試験の評価を形成評価とし、評価に一部加味することがあります。理療教育実施細則に基づき、前期・後期期末試験の平均点を本科目の学年末評価（小数点第1位切り下げ）とし、60点以上で単位修得となします。なお、再評価は行いません。	
履修上の留意点	自身の健康管理に留意するとともに、身体や白衣の清潔保持など、衛生管理に努めましょう。 施術中はクラスメートを患者と想定した態度・言動で臨みましょう。 授業で15分以上の遅刻・早退は欠席となります。	
自己学習の進め方	授業で使用する術式は、教科書をベースに行います。予習は、教科書を事前に読んでおいてください。復習は、事故や防災等に留意し、原則として実習室で行ってください。なお、授業時間以外の事故については自己責任になります。※「理療教育における施設や設備の利用等マニュアル(利用者向け)」第8章授業時間以外に実技練習を行うときの注意事項参照 わからないことがあれば教官に質問してください。	
使用教科書	理療基礎実習 第2版、東京都文京盲学校理療研究会著、日本ライトハウス、2019年	
参考書/参考資料	必要に応じて配付をします。	